

観察した鳥類チェックリスト

- | | | | |
|-------------|------------|-----------|-----------|
| ★キジ目 | ★ツル目 | ★ハヤブサ目 | □ ツグミ |
| ・キジ科 | □ クイナ | ・ハヤブサ科 | □ ジョウビタキ |
| □ キジ | □ バン | □ チョウゲンボウ | ・スズメ科 |
| ★カモ目 | □ オオバン | □ ハヤブサ | □ スズメ |
| ・カモ科 | ★チドリ目 | ★スズメ目 | ・セキレイ科 |
| □ コブハクチョウ | ・チドリ科 | ・モズ科 | □ キセキレイ |
| □ オカヨシガモ | □ タゲリ | □ モズ | □ ハクセキレイ |
| □ ヨシガモ | □ ムナグロ | ・カラス科 | □ セグロセキレイ |
| □ ヒドリガモ | □ コチドリ | □ カケス | □ タヒバリ |
| □ マガモ | ・セイタカシギ科 | □ オナガ | ・アトリ科 |
| □ カルガモ | □ セイタカシギ | □ ハシボソガラス | □ カワラヒワ |
| □ ハシビロガモ | ・シギ科 | □ ハシブトガラス | □ アトリ |
| □ オナガガモ | □ タシギ | ・シジュウカラ科 | □ ウソ |
| □ コガモ | □ イソシギ | □ ヤマガラ | □ シメ |
| □ ホシハジロ | ・タマシギ科 | □ シジュウカラ | □ コイカル |
| □ キンクロハジロ | □ タマシギ | ・ヒバリ科 | ・ホオジロ科 |
| □ ミコアイサ | ・カモメ科 | □ ヒバリ | □ ホオジロ |
| ★カイツブリ目 | □ ユリカモメ | ツバメ科 | □ カシラダカ |
| ・カイツブリ科 | □ セグロカモメ | □ ツバメ | □ アオジ |
| □ カイツブリ | □ オオセグロカモメ | ・ヒヨドリ科 | □ オオジュリン |
| □ カンムリカイツブリ | ★タカ目 | □ ヒヨドリ | □ |
| □ ミミカイツブリ | ・ミサゴ科 | ・ウグイス科 | □ |
| □ ハジロカイツブリ | □ ミサゴ | □ ウグイス | □ |
| ★ハト目 | ・タカ科 | ・エナガ科 | □ |
| ・ハト科 | □ トビ | □ エナガ | □ |
| □ キジバト | □ チュウヒ | ・メジロ科 | □ |
| ★カイツドリ目 | □ ツミ | □ メジロ | (外来種や家禽) |
| □ カワウ | □ ハイタカ | ・ヨシキリ科 | □ バリケン |
| ★ペリカン目 | □ オオタカ | □ オオヨシキリ | □ ガチョウ |
| ・サギ科 | □ ノスリ | ・セッカ科 | □ アヒル |
| □ ヨシゴイ | ★ブッポウソウ目 | □ セッカ | □ ドバト |
| □ ゴイサギ | ・カワセミ科 | ・ムクドリ科 | |
| □ アマサギ | □ カワセミ | □ ムクドリ | |
| □ アオサギ | ★キツツキ目 | ・ヒタキ科 | |
| □ ダイサギ | ・キツツキ科 | □ シロハラ | |
| □ チュウサギ | □ コゲラ | □ アカハラ | |
| □ コサギ | | | |

【5月のテーマ】 ヨシ原で子育てする水鳥たち

案内人：小田谷嘉弥（鳥の博物館学芸員）
北村章子（鳥の博物館市民スタッフ）



▲ヨシ原の中に作られた巣に座るオオバン。

手賀沼のヨシ原は、主にヨシ・マコモ・ヒメガマの3種の植物で構成され、沼沿いに丈の高い草地を作っています。ヨシ原の中は、数多くの沼に暮らす生き物にとって重要な住みかになっています。今回は、ヨシ原で繁殖する水鳥たちに注目して、彼らがどのようにヨシ原を利用しているのか、観察してみましよう。

2023年5月13日（土）

手賀沼のヨシ原で繁殖する水鳥たち



オオバン (クイナ科)
ハトより大きい ★★★

全身黒くて額が白い水鳥。手賀沼では一年中見られ、沼の浅い水辺で植物や小動物を食べる。越冬期には数が増えるが、手賀沼での繁殖期の個体数は減少が続いている。4-8月にヨシ原のヒメガマの中に草を積み上げて巣を作り、6-10卵を産む。



バン (クイナ科)
ハトくらい ★★

ほぼ全身黒く、額の赤い水鳥。手賀沼では一年中見られ、沼沿いの草地や浅い水辺で植物や小動物を食べる。4-8月に水辺の草地の中に巣を作る。年に2回繁殖し、1回目の繁殖で生まれた若鳥が親の2回目の繁殖を手伝うことがある。



ヒクイナ (クイナ科)
ハトより小さい ★★

頭部から腹にかけて暗い赤色の水鳥。警戒心の強い鳥で、「キョ、キョ、コココ…」という囀りで存在に気づくことが多い。手賀沼周辺では、かつては数少ない夏鳥だったが、近年では一年中見られ、繁殖も確認されている。草の中に巣を作るが、外からは見えない。

てがたんコースでの見つけやすさを★の数で示しています。
★★★：いつも見られる ★★：時々見られる ★：たまに見られる



カイツブリ (カイツブリ科)
ハトより小さい ★★★

よく潜る小型の水鳥で、尾が非常に小さい独特の丸い体形をしている。脚を使い潜って小さな魚や小動物を捕食する。手賀沼では一年中見られ、2-11月と長い期間にわたり繁殖期が続く。ヨシ原の縁や近くの水面に浮いた巣を作り、4-6卵を産む。



ヨシゴイ (サギ科)
ハトくらい ★

日本で最も小さいサギ。「オウ、オウ…」と低い声で繰り返し鳴く。ヨシ原の縁や水田で、小さい魚や小動物を捕食する。夏鳥で、5-9月ごろによく見られる。ヒメガマの中に草を編んで巣を作り、4-7卵を産む。複数のつがいが集まって繁殖する。



コブハクチョウ (カモ科)
とても大きい ★★★

全身白色の大型の水鳥。ヨーロッパ原産の外来種。手賀沼では1990年から繁殖するようになり、現在は毎年10つがいほどが繁殖している。ヨシ原の縁や中に草を積み上げて直径1.5mほどの大きな巣を作り、5-8卵を産む。